

● 公益財団法人に認定されました ●

この度、財団法人松竹大谷図書館は東京都より公益認定を受け、平成23年6月1日に、公益財団法人に移行登記いたしました。

公益法人制度改革により、今までの社団及び財団法人は、平成25年11月末までに公益社団・財団法人または一般社団・財団法人に移行しなくてはなりません。当財団は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営して、広く一般の皆様に所蔵資料を公開し、芸術文化の振興と社会文化の向上に貢献しております。50年を超えるその活動の公益性を認められ、公益認定を受けました。

今後も、創設者 大谷竹次郎の理念と遺志を受継いで、さらに役立つ専門図書館を目指してまいります。

公益財団法人への寄附には、寄附を行った方に税制の優遇がございます。
なにとぞ、これからも当財団の活動にご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

訃 報

当財団理事の渡邊明雄氏が平成23年5月26日ご逝去されました。(84歳)
昭和63年4月より当財団の監事に、平成12年4月からは理事に就任され、長年にわたり図書館の運営にご尽力を賜りました。

当財団評議員の野田助嗣氏が平成23年6月1日急逝されました。(65歳)
平成15年4月より当財団の評議員に就任され、図書館の活動にお力添えいただきました。

お二人のご厚情に感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

≫≫ お知らせ

- 早稲田大学演劇博物館『表象と形 伊藤熹朔と昭和の舞台美術』展(5月13日から6月19日)に、当館に寄託されている伊藤熹朔画の新派、歌舞伎作品舞台装置図30点が展示されています。
- 名古屋名鉄百貨店『わが心の歌舞伎座展』(5月24日から5月30日)に当館資料の歌舞伎座筋書、歌舞伎座90周年記念品などが展示されました。
- 5月20日、東京駅一番街B1Fキャラクターズストリートにオープンした松竹直営歌舞伎関連グッズ専門店『松竹歌舞伎屋本舗』で、松竹大谷図書館所蔵『組上燈籠・金閣寺』の複製版が販売されています。組上げた完成品も展示されています。おついでの折にお立ち寄りください。

■ 松竹系 5 月公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
新橋演舞場	『敵討天下茶屋聚』	○	○		
	『籠釣瓶花街酔醒』	○	○	○	○
	『あやめ浴衣』		○		
	第八十七回 東をどり			○	
日生劇場	『ガブリエル・シャネル』	○	○	○	○
明治座	『義経千本桜 川連法眼館』	○			
	『けいせい倭荘子 蝶の道行』	○			
	『恋飛脚大和往来 封印切』	○		○	○
	『通し狂言 怪談牡丹燈籠』	○			
	『高坏』	○			
南座（京都）	『猿之助歌舞伎の魅力』展			○	○
松竹座（大阪）	『女暫』	○			
	『汐汲』				
	『極付幡随長兵衛』	○			
	『倭仮名在原系図 蘭平物狂』	○		○	○
	『弁天娘女男白浪』	○			
	『春興鏡獅子』				

ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします

■ 他社公演資料 ■

赤坂ACTシアター	4月	『港町純情オセロ』プログラム、台本
アトリエヘリコプター	4月	『グラデーションの夜 群青の夜』プログラム
大阪新歌舞伎座	4月	『石川さゆり奮闘公演』プログラム
	5月	『梅沢武生劇団 梅沢富美男特別公演』プログラム
紀伊國屋サザンシアター	4月	『帰れ、いとしのシーバ』プログラム、台本
紀伊國屋ホール	5月	『恋人』プログラム
国立劇場小劇場	5月	『第一七五回 文楽公演』プログラム、床本
国立劇場大劇場	5月	『創立八十周年記念前進座五月国立劇場公演』プログラム
国立文楽劇場	4月	『第一二二回 文楽公演』プログラム
シアターX	4月	『病気』プログラム、台本
シアタークリエ	4月	『CLUB SEVEN 7th stage!』プログラム
	4月	『Underground Parade』プログラム
シアターコクーン	4月	『トップ・ガールズ』プログラム
シアタートラム	4月	『裸の女を持つ男』プログラム
下北沢シアター711	4月	『月とスッポン』プログラム
スペース・ゼロ	4月	『思い出のブライトン・ビーチ』プログラム、台本
	4月	『少年ハリウッド』プログラム
博多座	5月	『芸道五十周年記念北島三郎特別公演』プログラム、ポスター
博品館劇場	4月	『中島啓江コンサート 夢で逢いましょう』プログラム
		『シャンテ・ラ・レビュー20th』プログラム
		『50. パーフェクト・ライフ』プログラム
本多劇場	4月	『出発の詩集』プログラム
御園座	4月	『劇団若獅子陽春公演、若獅子VS亀治郎』プログラム、台本
御園座	4月	『紺屋の恋女房』『二人のドリームコンサート』プログラム
三越劇場（日本橋）	4月	『イヴ・モンタン 彼を憎んだ女と男』プログラム

■ 演劇雑誌 ■

『a a f通信』2011年2月

『Bunkamura magazine』2011 MAY No. 74

『舞踊芸術』2011年5月号、6月号

『Confettiかわら本』2011年6月号

『伝統文化新聞』2011年(60号)

『演劇界』2011年6月号

〔《特集》團菊祭 当代“團菊”対談 七代目尾上菊五郎 十二代目市川團十郎／陽春の舞台速報 《インタビュー》中村時蔵／上村吉弥／中村七之助〕

『演劇ぶっく』2011年6月号

〔《特集》表紙のヒト 松尾スズキ 宮藤官九郎 岩松了／浦井健治／城島茂×加藤成亮／NODA・MAP『南へ』野田秀樹／『国民の映画』小日向文世 小林隆／『芝浦ブラウザー』井ノ原快彦 上田誠〕

『悲劇喜劇』2011年6月号

〔《特集》天変地異と演劇 《掲載戯曲》『月にぬれた手』渡辺えり／『冬の旅』松田正隆〕

『邦楽の友』平成23年6月号

『ほうおう』2011年7月号

〔《インタビュー》片岡仁左衛門 《特集》『ふるあめりかに袖はぬらさじ』取材会レポート〕

『ジ・アトレ』2011年3月、4月

『ジョイン』2011 Mar. No. 71

〔《特集》東憲司「劇団のことばかりが頭にある」／追悼 さようなら、戌井市郎さん／私が選ぶベストワン2010／劇場という名の文明(26) 神奈川芸術劇場〕

『ジョイン』別冊2010加盟団体上演記録(2010年1月-12月)

『歌舞伎 研究と批評』2011年(46)〔《特集》横浜の芸能〕

『上方芸能』2011年6月〔《特集》これでわかる上方芸能 55の疑問〕

『喝采』2011年5月〔《特集》博多座五月公演 北島三郎特別公演〕

『喝采』2011年7月〔《特集》博多座七月公演 天璋院篤姫〕

『喝采』2011年8月〔《特集》博多座八月公演 宝塚歌劇星組公演 柚希礼音・夢咲ねねインタビュー〕

『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』4号〔《特集》伊藤正義先生 追悼〕

『国立演芸場公演ガイド』平成23年5月号、6月号

『ミュージカル』2011年5月-6月〔《特集》(1)『レ・ミゼラブル』／(2)小池修一郎の世界〕

『日本演出者協会 協会誌 D(ディー)』2011年6号、6月号外

『日本芸術文化振興会ニュース』平成23年6月号

『日本照明家協会雑誌』2011年5月号

〔《インタビュー》舞台照明家田中恒雄氏に聞く《特集》全国舞台照明技術者会議より(後編)／劇場の照明信号インフラの方向性について(前編)／シミュレーションソフトの現状とこれから 近藤明人〕

『日本舞踊』63巻6月号〔《特集》秘曲・新曲サロン 長唄 投扇興／舞踊写真教室 新内 広重八景〕

『大向う』平成23年5月号

『ラ・アルプ』2011年5月号

〔《特集》『ヴェニス商人』牽強付会の『ヴェニス』論●浅利慶太／『ユタと不思議な仲間たち』東京から東北へ、演劇の感動を届けたい —『ユタと不思議な仲間たち』加藤敬二×野村玲子特別対談—〕

『SePT倶楽部 information』2011年4月号、5月号

『シアターガイド』2011年7月号

〔《特集》「幽霊たち」佐々木蔵之介 白井晃 小野寺修二ほか／「サッドソング・フォー・アグリードーター」松尾スズキ×宮崎あおい×宮藤官九郎×岩松了／「血の婚礼」蜷川幸雄×窪塚洋介〕

『獅童の会』Vol. 9

『テアトロ』2011年6月号

〔《特集》テネシー・ウィリアムズの魅力 生誕100年によせて 《掲載戯曲》『Stake Out〜張り込み〜』高谷信之／『ちゃんぽん』ユン・ジョンファン〕

■ 映画雑誌 ■

『アウラ』2011年204号

〔《特集》徹底検証 ドキュメント3. 11～そのとき、テレビは何を映したのか！？～〕

『ドラマ』2011年6月号

〔《掲載シナリオ》『名前をなくした女神』1・2話 渡辺千穂／『さよならぼくたちのようちえん』坂元裕二／『風の道伝説 おじいちゃんの初恋物語』仲倉重郎〕

『映画テレビ技術』2011年6月号

〔《特集》NAB Show 2011レポート／立体映像新時代(27)第2次立体映画ブーム(4)／映画『スネーク・アイズ』～13分間の長回し〕

『映画ビジネス』平成23年5月上旬号

『映画芸術』2011年春号(435号)〔《特集》「大鹿村騒動記」／特集 映画の教室〕

『映画撮影』2011 May No. 189

〔《特集》撮影報告:『これでいいのだ!!』『岳』『八日目の蝉』『マイ・バック・ページ』『ショージとタカオ』『サクラ、サクラ〕〕

『映画時報』2011年4月-5月号

〔《インタビュー》木村光仁WDS・J営業本部長 《特集》東宝 松竹 決算、東宝新社長に島谷能成氏／松竹、新歌舞伎座の外観デザイン発表／第30回「藤本賞」川村元気氏〕

『映画秘宝』2011年7月号

〔《特集》新世紀SF映画アンソロジー100／サルでもわかるアメコミ入門〕

『衛星劇場プログラムガイド』2011年6月号

『キネマ旬報』2011年5月下旬号

〔《特集》映画俳優・西田敏行を知っているか?／フィリップ・K・ディック原作「アジャストメント」大森望×中原昌也／堤真一ロングインタビュー「プリンセス・トヨトミ」〕

『キネマ旬報』2011年6月上旬号

〔《特集》「マイ・バック・ページ」総力特集／シドニー・ルメットが社会に訴えたもの／女優田中好子逝く〕

『京橋映画小劇場 KYOBASHI-ZA』No. 22

『ムービー・スター』2011年7月号

〔《特集》『パイレーツ・オブ・カリビアン／生命の泉』16ページ巻頭大特集／日・英・米実力派俳優最新インタビュー／『マイ・バック・ページ』妻夫木聡×松山ケンイチ／『軽蔑』高良健吾×鈴木杏〕

『NFCカレンダー』2011年6月号

『日経エンタテインメント!』2011年6月号

〔《特集》勇気が出る 心が安らぐ 映画・音楽・本130／吉瀬美智子／福山雅治〕

『ぴあ』2011年5/26号、2011年6/9号

『ロケーションジャパン』2011年6月号

〔《特集》小栗旬『岳ーガクー』／おいしい&たのしい東京ロケ地／ロケ地でランチ!／竹野内豊『大木家のたのしい旅行 新婚地獄篇』／『プリンセス・トヨトミ』が大阪をジャックした!!〕

『SCREEN』2011年7月号

〔《特集》24大トップスター2011下半期～スケジュール大調査／「パイレーツ・オブ・カリビアン／生命の泉」のすべて／「ハリー・ポッターと死の秘宝PART2」〕

『シナリオ』2011年6月号

〔《掲載シナリオ》『岳ーガクー』吉田智子／第20回新人シナリオコンクール<佳作>受賞作『探偵より愛を込めて』川久保直貴〕

『シナリオ教室』2011年6月号

〔《掲載シナリオ》『JINー仁ー』第1話 森下佳子／第39回「創作ラジオドラマ大賞」佳作『鳳仙花の咲く家に』植澤紀子〕

『松竹(社報)』2011年(163号)

『TVガイド』2010年3/5号、3/12号、3/19号、3/26号、4/2号、4/9号、4/16号、4/23号、4/30号、5/7号、5/14号、5/21号、5/28号、6/4号

『ザ・テレビジョン』2010年3/5号、3/12号、3/19号、3/26号、4/2号、4/9号、4/16号、4/23号、5/7号、5/14号、5/21号、5/28号、6/4号

(新規登録資料案内 続き)

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『劇場版 戦国BASARA -The Last Party-』	○		○		

■ 映画プログラム ■

- 『SP 革命篇』 『ブラック・スワン』 『わたしを離さないで』
 『ガリバー旅行記』 『映画ドラえもん 新・のび太と鉄人兵団 〜はばたけ 天使たち〜』
 『ツーリスト』 『クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ黄金のスパイ大作戦』
 『阪急電車 片道15分の奇跡』 『きかんしゃトーマス ミスティアイランド レスキュー大作戦!!』
 『ダンシング・チャップリン』 『GANTZ: PERFECT ANSWER』
 『トゥルー・グリット』 『岳 -ガク-』 『名探偵コナン 沈黙の15分』
 『15周年記念「名探偵コナン」プログラムコレクション: 1』
 『シネマ落語 落語研究会 昭和の名人 弐』 『パラダイス・キス』 『奇跡』

■ 書籍 ■

- 『嘘つき男・舞台は夢』 コルネイユ (作)、岩瀬孝+井村順一 (訳) 岩波書店
 『守銭奴』 モリエール (作)、鈴木力衛 (訳) 岩波書店
 『世界文学全集43 三人姉妹/桜の園 他』 総合社 (編)、チェーホフ (著) 集英社
 『寺山修司幻想劇集』 寺山修司 (著) 平凡社
 『友よ』 アーノルド・ウェスカー (著)、小田島雄志 (訳) 晶文社
 『ピアノ・レッスン』 オーガスト・ウィルソン (著)、桑原文子 (訳) 而立書房
 『ピランデッロ戯曲集I I』 ルイージ・ピランデッロ (著)、白澤定雄 (訳) 新水社
 『道を行く』 加藤治子 (私家版)
 『メロドラマ フランスの大衆文化』 ジャン=マリ・トマソー (著)、中條忍 (訳) 晶文社
 『山崎正和著作集1 戯曲(1)』 山崎正和 (著) 中央公論社
 『山崎正和著作集2 戯曲(2)』 山崎正和 (著) 中央公論社
 『リア王』 (ちくま文庫) シェイクスピア (著)、松岡和子 (訳) 筑摩書房
 『リチャード三世』 (ちくま文庫) シェイクスピア (著)、松岡和子 (訳) 筑摩書房
 『ロミオとジュリエット』 (ちくま文庫) シェイクスピア (著)、松岡和子 (訳) 筑摩書房
 『アメリカ演劇2 テネシー・ウィリアムズ特集』 全国アメリカ演劇研究者会議
 『ウィングス』 アーサー・L. コピット (著)、額田やえ子 (訳) 劇書房
 『踊るヴィーナス イサドラ・ダンカンの生涯』 フレドリカ・ブレア (著) PARCO出版局
 『おやすみ、母さん』 マーシャ・ノーマン (作)、酒井洋子 (訳) 劇書房
 『仮面・傀儡・仮面劇 中国民間の儀礼と芸能』 早稲田大学演劇博物館
 『ザ・ロイヤル・ハント・オブ・ザ・サン』 ピーター・シェファー (著)、伊丹十三 (訳) 劇書房
 『「三人姉妹」を追放されしトゥーゼンバフの物語』 岩松了 (著) ポット出版
 『シェイクスピア名句辞典』 村石利夫 (編)、横川信義 (監修) 日本文芸社
 『シェイクスピア この豊かな影法師』 大井邦雄 (著) 早稲田大学出版部

≫≫ ご寄贈いただきました

2011年6月7日 映画倫理委員会様より 映画台本228冊御寄増いただきました。
 どうもありがとうございました。

専門図書館協議会関東地区総会記念講演 『図書館における電子書籍の利用とアクセス』レポート

2011年5月25日

東京商工会議所401号室

講師：糸賀雅児（慶應義塾大学文学部教授）

出席者：飯塚美砂

日本では、2000年前後からウェブ上に出現し始めたデジタル書籍が、現在、多様な端末機器を通して、様々な配布、販売形態を取って展開しつつある。これらの電子書籍と図書館は、どう付き合っていけばよいのかを考えるのが、今回の講演の主題である。

書籍がデジタル化されるのは以下の三つの場合が考えられる。

1. ボーンデジタル（デジタルで発行される書籍）、アナログ書籍の電子化。
2. 絶版、品切れ書籍のデジタル復刻。
3. 国立国会図書館の所蔵書籍のデジタル化。

図書館でのインターネット上の情報（各種データベース）や、発売されているデジタル書籍、雑誌の利用について

科学や医学など専門分野の研究発表は、電子ジャーナルでなされる場合が多く、関係する専門図書館ではこれらの電子ジャーナルを契約購読して、利用者に提供していることが多い。これらの電子資料は図書館資料と見て、所蔵する活字本同様、貸出したり（配信）、複写してもよいのだろうか。

図書館においてインターネットやオンラインデータベースといった外部情報源へアクセスしその情報を利用することは図書館資料の利用には当たらないといえる。なぜなら外部に情報源があるということは、図書館の関知できないところで情報内容が書き換えられる可能性がある、若しくはその情報自体が消去される可能性があるものである。これはいくら、利用料を払ってしようと図書館資料とは言えない。

図書館での複写は、図書館法により、その図書館で所蔵する資料の一部を利用者の調査研究のために複写することは認められているが、図書館資料ではないデジタル情報をプリントアウトすることは認められない。また、図書館は公衆送信権を持たないので、デジタル書籍を配信することはできない。

国立国会図書館でデジタル化した書籍の利用について

特に図書館界で注目されるのは、国立国会図書館が127億円という予算を取って進めている図書のデジタル化である。現在、絶版、著作権切れの図書から順次デジタル化されている。

これは、「将来にわたる利用に備えるため、資料を保存する責任を負う（図書館の自由に関する宣言）」という目的をかなえるためだけでも十分に意義のあることだと思う。しかし、各公立図書館には配信されず、国立国会図書館に直接来館しなければ閲覧することができないという現状は、ごく一部の利用者のみが利用できる状態で、国民的利用に供しているとは言えず、多額の予算を投じたことが無駄使い呼ばわりされかねない。ならばどうするか。

講師の糸賀氏は以下の案を提唱している。

国立国会図書館で製作した電子図書の公共図書館への配信を認める。

（これは公衆送信に当たり、現行では著作権法に抵触するので不可だが、以下の条件付きで無許諾送信を可とする法律の改正を進める。）

- ・ 閲覧は、各公立図書館での館内閲覧のみ。
- ・ 同時アクセス数を制限。（実際の図書が、所蔵冊数以上のものは閲覧に供せないのと同じ考え方である。）
- ・ 複製（ダウンロード、プリントアウト）不可。

著作権が存在し、著作権者に電子配信不許諾の意思がある場合は、その意思を尊重する。別途関係者間で協議することにし、できるところから配信を進め、知の再生産を促す。民間ビジネスと共生できるルール作りを考えて行くのが望ましいとしている。

● 所蔵資料展示案内 ●

第12回「コクーン歌舞伎」関連資料

展示期間：2011年5月27日～6月29日 於：松竹大谷図書館閲覧室

当館の所蔵資料展示も、この6月で早くも第12回目となりました。今回は、同じく今年12回目の公演を行うコクーン歌舞伎(6月6～27日)を取り上げ、これまでの公演に関する資料を展示いたします。

コクーン歌舞伎は平成6年の第1回公演以来、古典歌舞伎を斬新な演出で見せる公演を続けて、多くのファンの心を掴んでいます。その公演資料も大変独特で、一貫して赤を基調としたプログラムやポスターは、他の歌舞伎公演の資料とはまったく趣を異にしており、非常に目をひくデザインとなっています。

今回は過去11回分の公演プログラムを全てケースに展示いたしました。1冊1冊が迫力あるコクーン歌舞伎のプログラムが、小さい展示ケースに並んだ様子は、展示初日から来館者の注目の的となっています。

また、今回は残念ながら展示しきれませんでした。当館では全ての公演の台本を所蔵しております。カウンターで請求していただければ閲覧が可能ですので、この機会に是非、生の公演資料に触れてみて下さい。

【コクーン歌舞伎 公演の記録】

- 第1回 『東海道四谷怪談』 平成6年(1994)5/29～6/26
- 第2回 『夏祭浪花鑑』 平成8年(1996)8/30～9/2
- 第3回 『盟三五大切』 平成10年(1998)9/2～9/26
- 第4回 『三人吉三』 平成13年(2001)6/5～6/27
- 第5回 『夏祭浪花鑑』 平成15年(2003)6/2～6/26
- 第6回 『桜姫』 平成17年(2005)6/5～6/26
- 第7回 『東海道四谷怪談(南番・北番)』
平成18年(2006)3/18～4/24
- 第8回 『三人吉三』 平成19年(2007)6/7～6/28
- 第9回 『夏祭浪花鑑』 平成20年(2008)6/10～6/29
- 第10回 『桜姫』 平成21年(2009)7/9～7/30
- 第11回 『佐倉義民傳』 平成22年(2010)6/3～6/27
- 第12回 『盟三五大切』 平成23年(2011)6/6～6/27



「コクーン歌舞伎」第1～11回 公演プログラム

■ 「コクーン歌舞伎」関連資料展示一覧 ■

1. 『夏祭浪花鑑』 演劇スチール(九郎兵衛内屋根の場)
平成15年〔2003〕6月・第5回公演
団七九郎兵衛(五代目中村勘九郎〔十八代目中村勘三郎〕)、一寸徳兵衛(三代目中村橋之助)
2. 『桜姫』 演劇スチール(新清水の場)
平成17年〔2005〕6月・第6回公演
桜姫(九代目中村福助)、清玄阿闍梨(三代目中村橋之助)
3. 『東海道四谷怪談(北番)』 演劇スチール(砂村隠亡堀の場)
平成18年〔2006〕3～4月・第7回公演
直助権兵衛(十八代目中村勘三郎)、民谷伊右衛門(三代目中村橋之助)、佐藤与茂七(三代目中村扇雀)
4. 『三人吉三』 演劇スチール(本郷火の見櫓の場)
平成19年〔2007〕6月・第8回公演
和尚吉三(十八代目中村勘三郎)
5. 『佐倉義民傳』 演劇スチール(ラップシーン)
平成22年〔2010〕6月・第11回公演
木内宗吾(十八代目中村勘三郎)
6. 『東海道四谷怪談(北番)』 演劇台本
平成18年(2006)3月～4月・第7回公演
7. ～17. コクーン歌舞伎 第1回～第11回公演 各プログラム
18. 『東海道四谷怪談(南番)』 演劇台本
平成18年(2006)3月～4月・第7回公演

無事公益財団法人の認定を受けました。これに伴い、ニューズレターのレイアウトも少しだけリニューアルしてみました。

図書館の通常業務を今までどおり怠り無く行ってゆくことに変わりはないのですが、ここ近年は、原稿作成や、昨年より始めた展示など、仕事が多岐に渡ってきているように思います。特に展示は、今まで行っていないかったことなので、スタッフも毎回恵や意見を出しあって、より良い展示にするべく取り組んでいます。

今後も演劇・映画の両分野にまたがった、専門の図書館という特色を十分に生かしていければ...と思っております。



卓上型飛び出し坊や
(図書館スタッフの癒しです)